

〔翻訳〕

郭沫若「カルメラ娘」訳注（中）

張 琢 月

本稿は郭沫若「カルメラ娘」（原題は「喀爾美萝姑娘」）の訳注であり、「郭沫若「カルメラ娘」訳注（上）」（『国士館人文科学論集』第5号、2024年2月）に続くものである。

〔凡例〕

- ・底本には『郭沫若全集』文学編・第9巻（人民文学出版社・1985年）（以下、「全集本」と略称）を用い、『東方雑誌』第22巻第4期（1925年）（以下、「初出本」と略称）を参照した。
- ・全集本と初出本の異同は、注釈に示した。ただし、記号の変更（「。」→「！」）や文意が大きく変わらない改訂については省略した。
- ・補注は注釈に示した。なお、郭沫若の自注については、「郭沫若の自注」であることを明記した。

「一日三秋」という古人の話は度を越したものではありません。彼女と別れてから、たった一日でしたが三百年も隔てたような感じがしました。瑞華は私を図書館に行かせようとしていましたが、私は行きませんでした。彼女は私の元気なさそうな様子に気づき、勉強のし過ぎと勘違いしました。三日後、また私をN公園に桜を見に行かせました。N公園^{*1}はF市の南側にあり、私たちが住んでいるところとはちょうど市の端と端に位置しています。家にいる時、どうしてもつまらないので、瑞華の話に従い、長女を連れてN公園へ行きました。市のこちらの端から電車に乗って、あちらの端まで行き、公園前駅で降りました。公園は海の中に土を盛り上げて作った丘であります。公園までの小道^{*2}には大勢の花見客がひっきりなしに行き来して、道ばたの桜は満開でした。普段は人出の無い商店街も、この時ばかりは争って飾り付けをして客を招き入れます。酔っ払った人々が

*1 N公園 福岡市にある西公園のこと。

*2 初出本には「通向公園的大路絡繹着遊人」とあり、全集本では「通向公園的小路上絡繹着遊人」と改訂。

歌いながら、街を歩き回っています。学生、軍人、女子学生、若夫婦、肩で酒瓶を担ぐ二人組、歩きながら瓢箪に入ったお酒を飲んでいる人もいます。ゴロゴロという音、巻き舌の声、三味線を弾く時のチン・トン・シャンという音、ガチョウを絞め殺したような下手な歌声、……これらはすべて日本の奇妙な光景です^{*3}。日本では桜が咲く頃、国を挙げて国慶節のようなお祭りを行う風習があります。私は娘と一緒に人の流れに従って公園の入り口に向かって進みました。すると突然、ある店の入り口で彼女を見かけました！彼女の父親が憎くてたまりませんでした。彼女の家には八十歳くらいの祖母以外に、一人の中年男性もいて、おそらく彼女の父親だと思っています^{*4}。彼女はカルメラ売り屋の看板娘となり、店先で客をひきつけています。娘をこんなところに送り、とんでもないことをやらせる父親がありますか。これは身を売る行為と同じではありませんか。一時的に、彼女に同情してしまい、喜びの気持ちを忘れました。彼女のために悲しみを感じてしまい、今にも涙があふれ出そうでした。出かけた時、瑞華から一円^{*5}をもらいました。これはみんなの昼ご飯代のはずでしたが、彼女の店にかけこみ2個セットのダルマ型のカルメラを買ってしまいました。ああ、彼女がかわいそうです！彼女がかわいそうです！私に気づいた彼女は決まりが悪そうな様子になり、顔をあげられませんでした。彼女への同情をうまく伝えることができませんでした。本当は慰めてあげたかったのに、逆に不安感を与え、こんなにも気まずい思いにさせてしまいました。私は後悔しました。娘を連れ、あわてて公園に入り、海に臨む崖っぶちの善いところを見つけて座りました。紺碧の空、真珠貝^{*6}のようにきらめく海、そこに白いカモメが波間を飛び回っています。崖の上には青々とした松の老木が生い茂り、その中に紅く色づいた何本かの桜の樹が見えました。可憐な花びらは海風に吹き飛ばされ、深い海の底へと舞い落ちていきます。舞い落ちる花びらを見ると、思わず彼女の不憫な境遇を考え始めてしまいます。陰険な海潮は散り落ちた花びらをただよわせ、どこかの海岸に流れ着かせますが、彼女の境遇もどうなるのか誰にも分かりません。

私は崖っぶちに呆然として座り、娘は近くの草むらに落ちた花びらを拾いながら、アラセイトウ^{*7}を探していました。娘がたくさんの青っぽいアラセイトウを見つけ、家に帰りたいたいと言い出すまで、私たちは公園で二時間ほど滞在していました。私たちが帰る時は、わざわざ違う道を選んで公園から出ました。彼女に会いたくなかったのです。私が恥ずかしそうに、情けをかけるような表情をしてし

*3 初出本には「……日本特有的奇景。」とあり、全集本では「……這是日本特有的奇景呢。」と改訂。

*4 初出本には「我以為是他的父親。」とあり、全集本では「我想來是他的父親。」と改訂。

*5 初出本には「瑞華把了一圓錢給我們，」とあり、全集本では「瑞華把了一塊錢給我們，」と改訂。

*6 初出本には「海是真珠貝般的璀璨，」とあり、全集本では「海是珍珠貝般的璀璨，」と改訂。

*7 アラセイトウ 原文は「紫羅蘭草」。ストック、紫羅欄花とも言われる。

まうのを彼女に見られたくなかったのです。家に着いた時、娘はあのダルマ型のカルメラを母に渡し、お母さんと弟へのプレゼントだと言いました。瑞華は喜んで、娘を抱きしめ、キスをしました。また私の良心は苛まされ続けています。ああ、瑞華は私に注いだ愛が悪用され、立派なお布施になったことを知りません^{*8}。お金は彼女——カルメラ娘——が受け取ることはできず、誰かにエサとして利用されました！自分はなぜこんなにも愚かなのでしょうか。自分はなぜこんなにも忌々しいくらい愚かなのでしょうか！また瑞華に迷惑をかけ、昼ご飯をつくってもらいました。ああ、嫌らしい悪魔め！

乙女座が高くのぼって中天にかかる時、私は裏門をこっそり開けて薄暗い通りに出ました。遠くから犬の遠吠えが聞こえてきます。まるで自分が強盗になったような気分になり、実態のない恐怖が芽生えてきました。住まいからF市に行くには、松林を通り抜ける必要があります。松林には古廟があります。廟の前から海岸まで、二列の石灯籠がずっと続いています。松林を通り抜け、廟の前を通っていくと、高く飛び出る松の樹々に、ほのかな灯りにゆらめく石灯籠、それはまるで凶悪な鬼の影のようでした。向かい側にある市内の電灯は淡黄色の冷たい光を放ち、拍子木が三回叩かれる音を聞き^{*9}、電車もとっくに止まっています。私はN公園まで一人で歩いて行くと決心し、深夜に十四、五里^{*10}の道を歩くつもりでした。彼女に会うことは望まず、ただ彼女がいるところは私の聖地だと考えました。エルサレムへ巡礼を行う信者は、イエスと出会うことを期待していません。大通りへ向かって歩き、街灯の光は夢を見ているかのように薄暗かったです。星が光り輝いています。かんむり座は頭の真上に位置し、南斗六星は東の方に横たわっています。赤い炎のように燃えている火星は水平線からのぼり、まるできらきらと光輝いている乙女座を追いかけけているようでした。かすかな西風が海から吹いてきて、町中の紙くずを巻きあげ、まるで目の前で何匹ものモルモットがかけまわっているようでした。もの悲しい気分のまま、おそらく二時間ほど歩きました。N公園にある松はまるできれぎれの透明の彩雲のようでした。ようやく彼女の店の前につきました^{*11}。ドアは固く閉ざされており、街に人はいませんでした。ただいくつかの酒場のお座敷からは、眠そうな三味線の音と妓女の歌声が聞こえてきます。彼女の店先で少し立ち止まり、心臓の鼓動は自分で聞こえるほどドキドキしており、身体をぴったりとくっつけて戸板にキスをしました。戸板に

*8 初出本には「我濫用了她的愛情做了豪奢的施捨呢？」とあり、全集本では「我濫用了她的愛情做了豪情的施捨呢？」と改訂。

*9 拍子木が三回叩かれるのは、23時から1時の間。夜半。

*10 十四、五里 当時の中国の度量衡で記されており、7～8kmくらい。

*11 初出本には「我結局走到了她的店首了。」とあり、全集本では「我結局走到了她的店門了。」と改訂。

ははっきりと彼女の眼が現れました。私は再び公園に入り、昼間も座ったがけっ
ぷちにまた腰掛けました。

ああ、おかしいことだ！こんな夜遅い時間なのに、向かい側の道から人がやっ
てくるのです。もやもやとした白い影、一人の女性らしくて、私の全身の毛が逆
立つようでした。女の彷徨う影が徐々に近づいてきて、私の側まで来ると立ち止
まりました。「ああ、彼女です！」心の中でこう叫びながら、すぐさま飛び上が
ると彼女の手をとりました。彼女もたじろぎませんでした。

——「こんな夜遅いのに、まだ寝ていなかったのですか？」

——「ああ、十二時以降閉店なので、いまは（深夜）2時に過ぎません。」

——「君は昼間で疲れているのに、なんで早く寝ないのですか。」

——「私が寝るはずはありません。昼間あなたが来たのを見ましたが、あなた
が帰るのは見ませんでした。まだ公園にいるのではないかと思ったのです。店を
閉めたらすぐ公園に入り、ここで2時間^{*12}くらいさまよっていました。」

——「ああ、こんなにも気にかけてもらってました！崖のところに座って話
しましょう、君寒くないですか。」

——「寒くないです。」

二人は肩をならべて崖っぷちに座りました。彼女の顔は星の光の下で、非常に
生気がなく、瞳は人を驚かせるほど黒いのです。睫毛も一本一本がはっきり見え
ます。

彼女は「帰ってから、また来たのですか？」と尋ねました。

私は「はい」と答えました。彼女にこう話しました。昼間も二時間ほどここに
座っていました。帰ろうとした時、彼女に会うのが怖くもありました。会うのが
怖いではありません。私を見たら彼女が悲しくなるのが怖かったのです^{*13}。そ
れでわざわざ回り道をして帰りました。彼女に“私に会うことが怖いですか”と
訊きました。

彼女は、以前はそうではなかったのですが、今はちょっと怖いです。でも見え
ない時はいらいらすと答えました。私に「来る時は奥さんとお嬢さん達も寝ま
したか？」と訊きました。

自分は驚いて言葉が出ませんでした。

——「隠さないで、あなたには奥さんと子供がいることは、ずっと前から分かっ
ていました。奥さんはいい人です。H村に住むようになってから2年、彼女の悪
口を言う人はいません。逆に法学士のS夫人はきれいなのですが、心がけは悪そ

*12 初出本には「我在這裏徘徊了將近兩點鐘了。」とあり、全集本では「我在這裏徘徊了將近兩個鐘頭了。」
と改訂。

*13 初出本には「回去的時候怕看見你。不是怕看見你。是怕你看見我害羞。」とあり、全集本では「回去
的時候我是怕看見她。不是怕看見她。是怕她看見我難過。」と改訂。

うです。

おそらくあなたは最近私を知ったと思いますが、私は前からあなたのことを知っていました。ただあなたは私を意識していませんでした。今日連れてきたのが長女でしょう。」

——「ええ、ええ、そうです、そうです。すみませんでした！」

——「こちらこそすみません。でも・・・、ただ・・・」^{*14}

——「ただ、何ですか？ただ、あなたを愛してさえいればですか？」

——「ああ、そうでしたら、喜んで死んでもいいです。」

——「お嬢さん！（私は突然彼女の前にひざまずいて、膝においた両手をつかみました。）ああ、お嬢さん、お嬢さん！愛しています、死ぬほど愛しています、言葉では表現しきれない想いを心で語らせて下さい。（彼女の手をとって私の心臓に押し当てました）心臓がどれほど激しく鼓動しているか感じて下さい、どれほどすごいでしょいか！」

——「分かっています。」彼女の声が低くなり、とうとう泣きながら話しました。「ああ、奥様に申し訳ございません！」突然彼女は私の肩先に頭をのせ、我々は唇を激しく重ねました。二人はしっかりと抱き合って、物音一つしない暗闇に身震いしました。

最後に彼女が私を起こしてくれたので、私はまた彼女の隣に座りました。彼女は自分が生まれた時から両親に捨てられたことを詳しく語りました。彼女は誰からも愛されたことがありません。母親は未婚の良家の娘で、父親が誰なのか、今でも分かりません。今の養父は母方の実家から養育費としてただ二千元だけを受け取り、彼女が生まれてすぐに引き取りました。彼女の養父には年老いた母親しかおらず、生涯独身で過ごしてきました。老母は良家で働いていた奉公人でした。

私はまったく彼女の話に驚きませんでした。誰が彼女を見ても、身分が卑しい家の娘ではないと断言できるでしょう。

彼女はこう言いました。養父と祖母は彼女を愛しておらず、ただ珍しい品物として扱っています。彼女はこれまで誰にも愛されたことがなく、私に愛されたのが生まれて初めてのことだと言うのです。

彼女は言いながら、私をきつく抱きしめ、激しく叫びました。

——「奥様には申し訳ございません、奥様には申し訳ございません。でも、私は死んでも構いません、死んでも後悔はありません！」——普段はあんなにもおしとやかな娘が、私に熱烈なキスをしました。私の唇にキスし、眼にキスし、肩に・・・「あなた・・・あなたは私のことを忘れないで。私は死んでもあなたを

*14 初出本には「倒是我对不起你的太太。但只要……只要……」とあり、全集本では「倒是我对不起你呢。但是……只要……」と改訂。

忘れません。死んでもあなたから離れたくありません！」^{*15}——彼女はこう言いながら私の万年筆をとりだし、プレゼントとして贈って欲しいと求めました。私は承諾しました。彼女はふたたび私の首を抱いてキスをし、手を離しました。「私を忘れないで。」と言いながら、彼女は後ろを振り向くとどれくらい深いかも分からない真っ暗な海に崖っぷちから飛び込みました！

——「ああ！」私は叫んで、急いで彼女を抱き留めようとしてしました。——抱きしめました。でも、抱きしめたのは一緒に寝ている瑞華でした！瑞華も驚いて目を覚まし、どうしたのと尋ねました。私は驚きすぎて、すぐには答えられませんでした。……ああ、どうして夢のなかで死ななかったのでしょうか？

春休みのあと、学校の授業が始まりました。私の昼ご飯は食堂で済ませ、毎日いつも通り瑞華の手から三銭をもらいます。それ以来ふところ具合はかなりよいです。私は毎日の昼食を抜き、三銭を節約し、それを使ってカルメラ娘に会いに行く機会を作ります。毎日、晴雨を問わず、四、五回くらい彼女の窓の下にいきます。彼女が家にいるときは本当に私の気分がよく、いない時は本当に苦しいです。彼女に会えない時は一層苦しくて、彼女が恋人の家に行ったのではないかと疑うとき、その嫉妬心が私をさらに苦しめます。^{*16}彼女に近づく機会を作るため、たばこを吸い始めました。私は彼女が玄関のところで料理をする姿を見ると、遠くからタバコを口にくわえ、彼女のところに行って火を貸してもらいます。一回目の時、彼女はもう少しで私のタバコに自分で火をつけてくれようとしてしましたが、それを我慢して私にマッチ箱を渡しました。ああ、彼女から私に渡したマッチ、マッチ！私は燃えて死んでしまうところです！

五月二十七日と二十八日の二日間は、日本の海軍記念日^{*17}です。日露戦争の時、ロシアのバルチック艦隊を撃沈したのもまさにこの二日間のことでした。毎年日本人はこの二日間に祝賀会を開き、各学校も休みになります。F市の祝賀会場は、近くのH神社の前にありました。前日から棚を結び、小屋をかけ、施設の準備を始めています。食べ物売り場、飲み物売り場、手品会場、曲馬場、映画館、舞台、講演場、中学生の相撲場、剣道場、柔道場、弓道場、青

*15 初出本には「吻我的肩頸，…「你……你……你不要忘我，我是死也不能忘你的，我是死也不肯離開你！」」とあり、全集本では「吻了我的肩，頸，……“你……你不要忘記我，我是死也不能忘記你的，我是死也不肯離開你！”」と改訂。

*16 初出本には、この後に「我总要在花壇，附近的小菜店，澡堂门口，海岸，各处去找她，但總是找不着她。（私は、花壇巷、近くの八百屋、銭湯の入り口、海岸、あちこちで彼女を探すのですが、どうしても見つからないのです。）」とあるが、全集本ではこの一文がない。

*17 海軍記念日 日露戦争で日本がロシアに勝利したことを記念するため、1906年（明治38年）5月27日を「海軍記念日」として制定した。太平洋戦争終戦（1945年）まで毎年記念式典などが行われていた。

年団の運動会……普段は寂しい古廟ですが、たちどころに賑やかな市場になりました。祝賀会を行うとき、軍船が海戦の実演を行い、魚雷が爆発する音、大砲が発射される音、ドカンという大きな音が絶えません。飛行機も空中から飛んできて、低空で様々なパフォーマンスを演じていました。陸軍軍楽隊が演奏する音楽、大勢の人の騒がしさ、拍手の音、喝采の声、煙のように舞い上がるほこりの中に大勢の人が集まり、混雑は夜中まで続きます。夜には花火と爆竹があり、映画放映、ライトアップがなされ、客引きの太鼓があり、ほこりはかなり減ったが、客はさらに増えていました。私は二十七日の午後、彼女の扉の前を通った時、彼女は見えませんでした。また夜に行ったら、扉には鍵がされていたので、彼女は必ず会場に行ったと推測しました。そして私は会場へ彼女を探しに行きました。途中で何人かのクラスメートに会い、あそこに「シャン」がいるから、はやく行ってみなさいと言われました。この「シャン」という言葉はドイツ語 Schoen^{*18} からの変音であり、日本の学生達はこれを美人の代名詞として使っていました。彼らはある店を指さし、その店の前は客で賑わっていました。私が前のほうに寄って見ると、ああ、まさか私のカルメラ娘ではないのでしょうか？ また看板娘をやっています！ 相変わらずのカルメラ売り屋であり、店の前に二つの吸盤が設置されています。吸盤の後半部にはいくつかの穴が開けられており、前半部分は木製ボールが五つあります。穴^{*19} から盤面の周辺まで線が書かれており、盤面の周辺にカルメラの人形、飴細工の金魚、円盤状の飴などの景品が置かれていました。木製のボールが盤面の当り穴^{*20} に入ると、景品と交換ができます。結果によって景品の善し悪しも違います。このような子供だましのゲームですが、大勢の人が集まり、熱心にボールを打っています。一銭で五球を打つことができ、十回連続でやっている人もいます。ボールは一球一球打たれ、五十回打ちました。打った人は彼女の笑顔を買うことができ、彼女の方は笑顔をお金と交換しました。私はとても悔やんでも悔やみきれません！ 彼女の笑顔を見る度に、胸が痛みます。彼女は円盤のうしろに立ち、球盤の状況を見守り、彼女は公然と笑っていました！ 私は心の中で彼女の品性は下劣だと叱りました、とうてい下層の娘です。私には彼女のことをハエが集まるような臭い肉と罵りました。醜い、醜い、醜い、醜い、と罵りました。……彼女は人混みのなかで突然私に気付き、彼女の眼は特別に光彩を放っており、笑顔で私に会釈しました。まわりのほとんどの人々が振り向いて私に注目しました。ああ、私は本当に優れ

*18 郭沫若の自注には「美」とある。

*19 初出本には「孔穴」とあり、全集本では「穴孔」と改訂。

*20 初出本には「孔穴」とあり、全集本では「穴孔」と改訂。

た存在です。私は本当に優れた存在です！私は南面王^{*21}となり、これらの鶏の群れのなかで一羽の白鶴となりました！私は大勢の人をかきわけて球盤に近づき、五つの球を持って同時に投げだし、二十回連続で打ちました。見ている人々はただ笑っていました。私は日頃より貯めていたお金から二円を彼女に渡し、景品も受け取らずに、頭を抱えてこそこそと逃げ出しました。多くのあつい驚きの視線が私の背中に注がれました。よくやりました、よくやりました^{*22}。まるでまわりの人々を足でふみつけたかのようなようでした^{*23}。しかし、考えてみると、私もまた彼女を軽蔑したかのようなようであり^{*24}、私は明らかに彼女のことをからかっていました。自分も一匹のハエでした。私は後悔しました、そんな卑しいことをするべきではなかった^{*25}。明日の朝、彼女にお詫びに行こうと決心しました^{*26}。

翌日の早朝、五時を告げる時計が鳴った頃、夜気はまだ海岸に残っており、静かな会場はまるで昨日の喧噪を忘れたかのようなようでした。何軒かの飲食店の前では、女性達が掃除をしており、それ以外の物音は全くありません。私は彼女の店の前に行き、開けっぱなしの扉から中を見ましたが、誰もいませんでした。店の裏にまわると、ああ、遠くに彼女の姿が見えました！^{*27} 青々とした松の老木の下に荷車が横付けされており、その荷車の竹かごの中には白いカルメラの人形が積み上げられていました。彼女は藍色の寝間着を着ていました。寝間着には白い柳模様が施されています。荷車の近くに立って、ダルマに赤色の袈裟を塗っていました。私に気づくと、微笑みました。私は彼女の近くに行くと、彼女はちょっとまわりを見回して、まず私に向かって「ほんとうに賑やかですね！」と低い声で言ったのです。——ああ、「本当に賑やかですね！」この一言には何の意味もありますが、私に話しかけてくれたのは初めてでした！しかも話す前にまわりを見回したのです。彼女のような優しくしとやかな心には、どれほど深い情愛が含まれているのでしょうか！今回は

*21 南面王 古代中国において、王や君主は南を向いて着座する習慣があり、南面する北側の席が上座とされた。南面して座り、君主の位につくと考えている。

*22 原文「快興」 快挙に近いニュアンス。「快興」という名詞がないが、「快挙」がある。快意的な行動という意味である。「挙」は「舉」の異体字として、使われたことがある。

*23 初出本には「我觉得把那围着的人群都踏在脚下了一樣。」とあり、全集本では「好像把那围着的人群都踏在脚下了一樣。」と改訂。

*24 初出本には「我觉得也侮辱了她。」とあり、全集本では「我又觉得也侮辱了她。」と改訂。

*25 初出本には「我失悔起来，我觉得不應該如此下作，」とあり、全集本では「我失悔，不應該如此下作，」と改訂。

*26 初出本には「我决心明天清晨去向她謝罪。」とあり、全集本では「我下了决心：明天清晨去向她謝罪。」と改訂。

*27 初出本には「我繞向店後去，我遠遠看見她了！」とあり、全集本では「我繞向店後去，啊，遠遠看見她了！」と改訂。

夢ではないですよ？今回は夢ではないですよ？私は青々とした空を見上げ、青々とした海を眺め、青々とした松林を見つめていました。私の頭はこんなにもはっきりしているのに、今度は夢のはずがないのでしょうか？彼女の心の中にも私への好意が芽生えているのではないかと推測しました——愛情の芽生えです——信じられないなら、ごらんなさい！彼女は言葉を交わした後、下を向いて再び袈裟を描き始めました。彼女の唇は手の動きにあわせてわずかに震えており、少し笑っているように見えました。彼女のこの様子は、何を意味すると思いますか。あなたなら簡単に彼女は恥ずかしがっていただけだと言うかもしれません。しかし、私を見て恥ずかしがる理由は何でしょう？恥ずかしさは、愛情の表現ではないのでしょうか？私は呆然としてしまいました。松の木の下に立ち彼女を見ていました。私は前回見た夢に苦しめられており^{*28}、砂糖で作られたダルマがうらやましくて仕方がありませんでした。彼女は朱色を塗りおえると、金泥の装飾を塗り始めました。これは袈裟の金色のボタンです。彼女はこれ以上何も話さず、私も彼女に訊くことが見つかりませんでした。理由はよく分かりませんが、彼女に会うと私は言葉に詰まってしまいます。しばらく呆然としていましたが、仕方なく「さよなら」と言いました。——「ああ、さよなら！」

月日の経つのは早く、また夏休みに入りました。学校は私を大阪の工場に派遣し、実習に行かせました。実習には行かなければなりません。卒業するまでに実習報告書を提出する必要があるからです。私は大阪に二ヶ月滞在しましたが、この二ヶ月間は本当に苦しかったです。その苦しみは言うまでも無く、彼女に会えなかったことです。ところが私はまた心地が良かったと感じました。気楽になったのは私の瑞華と一時的に離れることができたからです。瑞華に会うのが恐ろしいのです。彼女に会えば、私の良心は苛まされることになります。^{*29}私は大阪で二ヶ月間実習をし、九月初旬になってやっとF市に帰りました^{*30}。家に着く前に、まず花壇巷へ彼女を見に行きました。ああ、かわいそうに！彼女は病気になっていました！彼女の首には包帯が巻かれ、顔の左側にピクリン酸のような黄色い跡がついており、皮膚もむくんでいました。

私は彼女に「病気ですか？風邪のせいですか？」と尋ねました。

彼女は、「ああ、違います！これは瘰癧（るいれき）です。大学病院で手術を受けました。」と答えました。

*28 初出本には「夢中の情景苦惱着我、」とあり、全集本では「前回の夢中情景苦惱着我、」と改訂。

*29 初出本には「見了她便要守着良心上的苛責_レ」とあり、全集本では「見了她便要守着良心上的苛責_レ」と改訂。初出本はこの後、「不見她時覺得舒展一点。（彼女に会わない時、気分が少し軽くなります。）」とあり、全集本にはこの一文がない。

*30 初出本には「我到九月初旬才回F市_レ」とあり、全集本では「直到九月初旬才回F市_レ」と改訂。

ああ、瘰癧ですか！ これは肺結核と関連があるのではないのでしょうか？ 牡丹の芽が出たばかりなのに、虫に食われてしまったようです！ 不平等な社会ですよ。悪に満ちたる社会ですよ。もし彼女がこのような貧民街に住んでいなければ、どうして肺結核にかかるのでしょうか？ もし彼女が貧しい家庭に生まれていなければ、たとえ肺結核にかかっても十分な栄養をとることができるでしょう。ああ、残酷な社会です！ 鉄の鎖が貧しい人々を縛り付け、激しい細菌は彼らを好き放題蹂躪します！ 私は彼女のために敵を討ちたい。私は彼女のために敵を討ちたい……。

私は悲しみと怒りで胸がいっぱいになり、一方でうらやましさも感じました。友よ、私が何をうらやましがっているか分かりますか？ 友よ、私は医者である君たちがうらやましいのです！ 医者である君たちは本当にめぐまれています。女性の肌を触診し、女性の胸を打診し、女性の心音を聴診し、女性の秘密の花園を診察します。これは医者の特権です。すべての女性が医者の前で裸になり、医者達はとっとうらやましいです。この点だけでも多くの青年を誘惑し、医科大学に進学させたいことでしょう！ ああ、私は違う道を選んだことを後悔しました！ もし私が医者だったら、彼女の診察ができたでしょう。彼女の名前を尋ね、家族の状況を訊き、病歴を調べ、さらに指で彼女の眼を触り、頬を触り、首を触り、手を触り、胸を触り、お腹を触り、そして……。ああ、言いたくないです、言いたくないです。全身の関節の力が抜けてしまいました！ 私のメフィストフェレス^{*31} め！

彼女が病気になったことが分かりました。彼女が毎日大学病院へ治療を受けに行くことが分かりました。それで私も病気になったふりをしました。私は神経衰弱を装い、毎日内科の先生につきまといました。これは彼女に会うための口実です。私は彼女が外来患者の待合室に座っているのを見て、遠くからお互いに軽く挨拶するだけで十分満足でした。ある時、私は外科治療室にいる彼女を見ました。若い男の医者が彼女の包帯を荒っぽくほどき、ピンセットで傷口をたどたどしくおさえ、さらに銅の棒を傷口に二寸（約 6 cm 強）ほど深く差し込んでいました。ああ、かわいそうです！ 彼女は眼を固く閉じ、眉をひそめ、歯をくいしばり、唇は紫色になっていました。真っ白な歯が唇の間から見え、はっきりとした睫毛の下に涙の粒がいくつか浮かんでいました。その銅の棒がまるで私の心臓に刺さったようでした^{*32}。私は医者であるあなたたちを呪いました。一千万回も呪いました。あなたたちは社会の

*31 メフィストフェレス (Mephistopheles) ゲーテの『ファウスト』に登場する悪魔。ファウストはメフィストフェレスと契約することで、快楽を追求していった。

*32 初出本には「我的心就好像针刺的一样」とあり、全集本では「那根铜条就好像刺着我的心臟一样」と改訂。

病原体です！ 美の破壊者です！ 医者をしているあなた方は悲しみを感じません。慈しみも感じません。人間をただの実験動物と思っています。博士号を求め、巨万の家の財産を求め、あなたたちは富豪にしか媚びを売りません。あなたたちは貧民達の仇敵であり、貧民達の命を命とも思わず、あなたたちは人間に似ているチンパンジーです！ あなたたちは仁道と言えるにふさわしくなく、人類愛を持つと称するだろうか？「死」の強迫はあなたたちの前にあり、社会の欠陥もあなたたちの前にあり、あなたたちは銅貨しか見ていません！ あなたたちと病原体は兄弟です。あなたたちは死ぬべきです、死ぬべきです！——ああ、友よ、理由無くあなたたちを罵ってしまいましたが、怒らないでください。我々の命は結局あなたたちに支配されています。我々はあなたたちの死刑囚です。刑場に行く前の死刑囚は、上級の官吏を侮り罵っても罪にはなりません。あなたも見咎めないでください。とにかく現在の社会のすべては酷く怒鳴りつけるべきです——私も含め——医者のあなたたちだけではありません。

彼女の瘰癧が全治しました。大学病院で約一ヶ月間治療を受けた後、もう行かなくなりました。しかし、私の病気は冗談から本当になってしまいました。私の神経は確かに異常を起こしました。夜は眠れなくなり、本を読んでも読解力が落ちてしまい、精神を集中させることが出来ず、記憶力もほとんどゼロに下がってしまいました。本を読むとき、二ページ目を読むと、一ページ目をすぐに忘れ、酷いときには二行目を読むと一行目を忘れてしまいます。本を手にとると、彼女の眼、彼女の睫毛が文字や行間に浮かび上がって見えます。Mを見ると、マドンナ^{*33}を連想し、Aを見るとアフロディテ^{*34}を連想します——連想では無く、勝手に私の頭のなかに混入してきます。直接的な連想、間接的な連想、連想が一度始まると窮まりなく、しかも非常に速く、次から次へと頭の中に湧いてきます。作図をするにも意欲が湧かず、実験をしても効果が出ません、卒業試験が目前に迫り、卒業論文の準備をしなければなりません。私はひどく焦ってしまい、落ち着いて座れなくなりました。私はしばしば彼女に会いに行こうとしました。彼女の家の前で一度彼女を見かけた時は、数分間だけ落ち着くことが出来ました。しかし彼女が扉や窓を閉めたら、またイライラしてきて、彼女に再び会う方法を考え始めます。カルメラは売り切れた時が最も苦しくて^{*35}、彼女に会えず、二、三十回くらい窓の下を行ったり来たりしました。一日中彼女に会えない日もあり^{*36}、その時は激しく怒り、家に帰ると何の理由も無く子供たちを殴ったり叱ったりし

*33 マドンナ：原文は「Madonna」。作者原注には「聖母マリア様の別名である。」となる。イタリア語の「Madonna」が由来となっており、キリスト教の聖母マリア様を指す言葉として使われている。

*34 アフロディテ：原文は「Aphrodite」。愛と美を司るギリシア神話の女神である。

*35 初出本には「我是最苦、」とあり、全集本では「我最痛苦、」と改訂。

*36 初出本には「整整有一天不見她的時候、」とあり、全集本では「整整一天不見她的時候也有、」と改訂。

てしまいました。瑞華は私が病気になったことを知っていますが、病気になった原因は分っていませんでした。彼女は私が病気を抱えながら、毎日学校で懸命に苦学していると思っていました。しばしば心を尽くして私を慰めてくれました。しかし彼女が心を尽くせば尽すほど、私を苦悩させます。彼女と子供たちが私を縛る枷のように感じられました。時々夜になるとカルメラ娘の窓の下に立ち止まり、窓とドアはもう閉じられていました。私はひそかに隙間から中をのぞき込むと、彼女が電灯の下で縫い物をしたり、新聞を読んだりしている姿が見えます。彼女は頭をあげ、空虚なところを見つめるのが好きで、その時私は彼女が私のことを考えていると想像します。たまに彼女の家にはお客さんが来ます。若い男性が来訪すると、私はうらんでしまいます。彼女の祖母は幽霊のように、常に彼女のそばにいます。おそらく彼女の父親はどこかの職人であり、朝早くから出かけ、夜遅くまで帰ってきません^{*37}。彼に会うのが少し怖いので、彼が家にいるときは、私はカルメラを買いに行かず、まっすぐ通り過ぎて行きます。家事は彼女一人に頼り、食事、洗濯、掃除、商売などすべて彼女が管理しています。冬になると、彼女は朝早くブリキのバケツで近所に水をくみに行く姿を私は目にしました。いっぱいになったバケツを持って家に戻ると、彼女の顔は真っ赤になっており、どうにもかわいそうに感じます。彼女の両手は凍えて、あかぎれが出来ていました。私は常に彼女に話しかけたいと考えていますが、なかなか一言二言しか話せません。彼女がおずおずとした顔をして、私も恥ずかしさを感じてしまいます。しかも私は中国人だと知られることを恐れており、日本語が不得意なことも心配です。また何度も彼女に手紙を書き、心の隅々まで伝えたいと思いましたが、書いたものを破り捨てました^{*38}。一度だけ手紙を完成させ、彼女に渡そうとしましたが、結局取り返してしまいました。私は中国人であることを知られたら、今のほんの少しの好意さえもなくなってしまうことを恐れています。そうなったら、好意を失ったことを認められません。これは命を失う可能性がある冒険です。私はどうすればいいのでしょうか^{*39}。時に思い切って卒業せずに、F市にさらに二年間住み続けたいと考えたりもします。しかし落第は最大の恥辱であり、しかも瑞華にたいへんな迷惑をかけてしまいます。彼女は異国で苦勞にたえ、私が早く卒業して、母国で事業を展開できるように望んでいます。もし夫が落第すれば、彼女は人に顔向け出来なくなるでしょう。私は絶対に落第するわけにはいきません！しかし、精神はこんな状態に陥ってしまいました。卒業試験の日が徐々に迫ってきているのに、彼女の私に対する感情はまったく進展が見られませ

*37 初出本には「光景要晚上才回来、」とあり、全集本では「要到晚上才回来、」と改訂。

*38 初出本には「但又扯了。」とあり、全集本では「但又撕了。」と改訂。

*39 初出本には「我怎麼做呢？」とあり、全集本では「我怎麼辦呢？」と改訂。

ん。彼女は私に会うと、いまだに恥ずかしがり、三月に初めて出会った時と同じです。彼女は結局、私をまったく愛していないのでしょうか。それとも私の鈍さが嫌いなのでしょうか。年次休暇中に、彼女が西洋紙に書かれた手紙を読んでいるのを見ました。彼女は読みながらとっても心地よく微笑んでおりました。これは言うまでもなく誰かからのラブレター^{*40}でしょう！私はこの発見によって強く決心し、彼女につきまとわず、試験の準備に専念しようと決めました。しかし、時間が非常に差し迫っていました。作図は八、九枚残っており、論文の準備もまだ手につかず、最も苦しいのが実習報告書です。夏休み中に形通り大阪に二ヶ月滞在し、二つの工場で実習をしました。日々ぼんやりし、まるで夢のなかを過ごしているかのようでした^{*41}。日記日誌もこまごましたものであり、嘘の話を作り上げるのは極めて難しいものでした。そこで私の悪知恵が出てきました^{*42}。K大学の友人が偶然にも同じ時期に大阪の工場で実習したことを思い出し、彼に手紙を書いて原稿をコピーしてもらうことに決めました。作図は試験のあとに再提出します。私は論文に集中して、教授から研究テーマをいただき、実験に着手し始めました。朝から晩まで実験室にいましたが、頭の中がまとまらず、実験結果もなかなか得られませんでした。時間は波のように激しく流れ去っていき、一週間経ち、二週間経ち、三月十日が迫る中、私の論文は筋道が全くはっきりしておらず、完全に絶望してしまいました。十一日はまるまる学校には行きませんでした。二ヶ月ぶりに朝早く私のカルメラ娘を見に行きました。彼女の家がある通りの入り口に着くと、また柳の若芽が出ており、向かい側のお宅のサザンカも咲いていました。すべてが一年前に彼女と出会った時と同じようでした。しかし、彼女の窓の下にはカルメラの箱は置かれておりません。私は再び訪れた丁令威^{*43}となったのです。ああ、彼女はいつ引っ越ししたのでしょうか、どこに引っ越ししたのでしょうか^{*44}。私は花壇巷で一時間くらい徘徊していました。H神社の松林で彼女が袈裟を塗っていたところに立ち、空が青々とし、海が青々とし、松林も青々

*40 ラブレター 原文は「love-letter」。作者原注には「情書」とある。

*41 初出本には「但是昏昏迷迷地如在睡夢過了的一樣、」とあり、全集本では「但是昏昏迷迷地如在夢中過了一樣、」と改訂。

*42 初出本には「到這時候我的詭計生出来了、」とあり、全集本では「到這時候我的詭計出来了、」と改訂。

*43 丁令威 神話人物。出典は岡本綺堂による『中国怪奇小説集：怪談コレクション：搜神後記（六朝）』であり、タイトルは「千年の鶴」。原文は「丁令威は遼東の人で、仙術を靈虛山に学んだが、後に鶴に化して遼東へ帰って来て、城門の柱に止まった。ある若者が弓をひいて射ようすると、鶴は飛びあがって空中を舞いながら言った。「鳥あり、鳥あり、丁令威。家を去る千年、今始めて帰る。城廓故もとの如くにして、人民非なり。なんぞ仙を学ばざるか、塚々たり」となる。おそらく、郭沫若はここで、この物語の巧みを借用し、風景は以前のままなのに、カルメラ娘の状況は全く変わってしまったことを表す。

*44 初出本には「搬到了那兒呢？」とあり、全集本では「搬到哪兒去了呢？」と改訂。

としていました。私もまるで夢の中から目覚めたかのようなものでした。また、N公園に到着し、夢のなかで一緒に肩をならべた崖っぷちに座り、昔と変わらず青々とした松、古（いにしえ）と変わらず青々とした海、海が絶えず波を立てていました。カモメは崖の下を飛び回っていました。桜はつぼみをつけはじめていますが、海の衝撃を受けた去年の花びらはどこへ流れ着いたのでしょうか。すべては夢のようであり、すべては夢以上に儚いものでした。最大の疑問は彼女の私に対する愛情であり、彼女の心は青海原のように神秘的でした。彼女はいったい私を愛していたのでしょうか。もう知り合って一年以上経つのに、お互いの名前も知らず、お互いの気持ちも確認できず、ただ恥ずかしがり、その恥ずかしさは何を意味しているのでしょうか？ 私は彼女に中国人だと知られることを恐れており、妻がいることを知られるのを恐れており、彼女はもう分かっているのでしょうか？ 落第が目前に迫っています。自分がすでに死刑宣告を受けたようでしたが、彼女はどこへ行ってしまったのでしょうか。最後の別れも言えず、これは私の生涯の心残りでした。母国の両親と兄弟、友人、六、七年の官費を提供してくれた母国、H海岸で寂しく私の帰宅を待っている妻のことを思うと、思わず涙があふれ出しました。私はすべての期待に答えられませんでした！ 私の頭はもはや役に立たず^{*45}、何の希望があるでしょう。なんの顔向けができるでしょう。卑劣な落伍者、色狂い、または二重人格者であり、私には唯一の道しかありません、なんのために躊躇しているのでしょうか？ 私はN公園から鉄道の線路に向かい、線路に沿って北に歩いて行きました。のぼりとくだりの電車が何本も通過しました。工科大学の近くまで来ると、再び海岸沿いを通り抜け、H村も通り過ぎていました。太陽はちょうど海に沈もうとする時、水平線から五、六丈ほどの何層もの雲から半円形の放射状の夕陽が海に降り注ぎました。——ああ、あれは彼女の睫毛でした！ 彼女の睫毛でした！ バラ色の夕焼けは彼女の恥ずかしい顔色を思い出させ、これ以上ないくらい私の心は震えました。青々とした海に押し寄せる白い波は私を手招きしているようで、私は彼女の冷たい手首をつかまえ、さらにかわいらしい少女が恥ずかしそうにしているのを、また彼女の睫毛の美しさを追い求めました。……追い求めるものは永遠に距離が変わらない遠いところにあり、私は力尽きました。鉛の重りが私の両足に垂れ下がり、世界は目の前から消えてしまいました。海水が絶え間なく私の口に注ぎ込み、最後的一幕も大きく開かれました。一瞬の間に世界が始まる前の時間に戻ったかのようなものでした。

*45 初出本には「我的脳筋是沒中用了、」とあり、全集本では「我的脳筋是不中用了、」と改訂。